

道路下水道局の取り組み

安全・安心なまちづくり

道路下水道局は、市民の安全・安心と快適な生活を守るために必要なインフラである「道路」「河川」「下水道」の計画・整備・維持管理を行っています。

道路事業



市民の安全・安心を確保するため、交通安全対策や道路のバリアフリー化を進めるとともに、都市の魅力に磨きをかけるため、幹線道路の整備や無電柱化などを進めています。

道路下水道局が管理する
道路施設
道路延長 約3,851km
橋りょう 1,970橋
道路照明 37,012基
※平成27年度末時点

都市計画道路 香椎アイランド線(東区香椎照葉)
延長 1,100m 幅員 35m 平成29年春に歩道まで含めて完成予定

河川事業



大雨による洪水から市民を守るため、過去に浸水被害が発生した河川の改修を進めています。また、大雨を一時的に溜める治水池の整備も進めています。

道路下水道局が管理する
河川
延長 約169km
24水系 109河川
※平成27年度末時点

都市基盤河川改修事業 周船寺川(西区田尻)
事業延長 4,580m

下水道事業



衛生的で快適な暮らしを支えるとともに、浸水からまちを守るため、下水管及び処理場・ポンプ場などの整備や地震対策などを行っています。また、下水道資源の有効利用を図るため下水処理水の再生や下水バイオガス発電などの取り組みも行っています。

道路下水道局が管理する
下水道施設
管路延長 約7,097km
ポンプ場 67か所
水処理センター 6か所
※平成27年度末時点

雨水整備レインボープラン天神で整備中の雨水管
中部2号幹線 内径4.75m

2～3ページ

安全・安心な生活を支える道路のいろいろな働き

4～5ページ

安全・安心な生活を支える総合的な治水対策

6～7ページ

下水道のお金のはなし
下水道資源の有効活用
下水道の国際展開

8ページ

皆さまへお知らせ

「下水道ビジョン2026(原案)」及び「道路整備アクションプラン2020(原案)」への市民意見募集

福岡市下水道の目指すべき将来像やそれを達成するために、平成29年度以降に取り組む具体的施策等を取りまとめた下水道分野の基本計画である「福岡市下水道ビジョン2026(原案)」及び、平成29年度以降の福岡市の道路整備における基本的な考え方とそれを実現するための主要施策を示した、「福岡市道路整備アクションプラン2020(原案)」を作成しました。現在、原案に対する市民の皆様のご意見を募集しています。

【意見募集期間】平成28年10月3日から11月2日まで

【原案の閲覧・配布場所】情報プラザ(市役所1階)、情報公開室(市役所2階)、各区情報コーナー、入部出張所、西部出張所市ホームページにも掲載。また、それぞれの問い合わせ先(いずれも市役所6階)でも閲覧・配布しています。

【意見書の提出方法】11月2日までに、郵送かFAX、メールのいずれかにより提出。また、各閲覧・配布場所に持参可。(電話での意見提出は受け付けておりません)

【問い合わせ先】○下水道ビジョンに関すること 下水道経営企画課(TEL:092-711-4613 / FAX:092-733-5596)
○道路整備アクションプランに関すること 道路計画課(TEL:092-711-4462 / FAX:092-733-5533)

自転車は、駐輪場にとめましょう

道路や公園などの公共の場所での自転車の放置は、歩行者や車いす利用者などの通行の妨げになるとともに、点字ブロックの上や周辺への駐輪は視覚障がい者の通行の妨げにもなります。命にかかわる緊急時の救急・消防活動や災害時の避難活動の妨げにもなりますので、自転車は、駐輪場にとめましょう。また、路上駐輪場をご利用の際は、盗難防止のため、暗証番号が設定できる駐輪場の利用や、二重ロックによる対策をお願いします。



駐輪場や放置自転車に関するお問い合わせ先

区役所	担当課	電 話	FAX
東区役所	維持管理課	645-1062	632-8999
博多区役所	自転車対策・生活環境課	419-1071	441-5603
中央区役所	道路適正利用推進課	718-1093	718-1079
南区役所	維持管理課	559-5102	559-5096
城南区役所	生活環境課	833-4089	822-4095
早良区役所	生活環境課	833-4342	851-2680
西区役所	管理調整課	895-7052	882-6135

グリース阻集器の管理は適切に！

飲食店など油脂類を排出する事業場は、油脂類を汚水から分離し、収集するためのグリース阻集器を設置し、適切な維持管理をお願いします。詳しくは、[ホームページ](#)(「福岡市グリース阻集器」で検索)をご覧ください。下水道管理課(電話:711-4534 FAX:733-5596)までご相談ください。

下水道の使用開始・変更・廃止届の連絡について

井戸水を使用している家庭の世帯人数の変更や、井戸や雨水等設備の新規利用・用途変更・廃止の場合は、すみやかに下水道料金課(電話:711-4507、FAX:733-5596)までご連絡ください。

地域でバス停にベンチを設置できます

バスを利用される方々の休憩の場であるバス停ベンチは、バス事業者だけでなく、地域団体の方々も許可を得て設置することができます。また、設置費用や維持管理費用に充てるため、近隣の店舗等の広告を載せることができます。バス停ベンチの設置をご検討される場合は、ベンチの規格や諸条件がありますので、[路政課](#)(電話:711-4458 FAX:733-5591)までご相談ください。

据置きタイプ



ビス留めタイプ



植木や生け垣は道路にはみ出さないようにしてください

植木や生け垣が道路にはみ出していると歩行者や自動車の安全な通行の支障になり、またカーブミラーや交通標識を見えにくくし交通事故の原因にもなります。ご家庭の植木や生け垣は道路にはみ出さないように、適切に剪定していただき、道路を安全に快適に通行できるようにご協力をお願いします。

「ぼんプラザ」下水道PRコーナー



暮らしの身近にある

道路・河川・下水道の役割や取り組みは

道路下水道局のホームページをご覧ください。

道路下水道局

検索

安全・安心な生活を支える道路のいろいろな働き

道路は、私たちの安全・安心な生活を支えるために重要な機能と役割を持っていることを知っていますか？
ここでは、道路のいろいろな働きをご紹介します。

役割1 交通機能

自動車や自転車、歩行者などの人や物の交通網としての役割を担います。



役割2 都市形成

都市全体の骨格を形成し、市街地や都市発展の一翼を担います。また、災害時の避難路や防災活動の場、火災時の延焼防止などの空間となります。

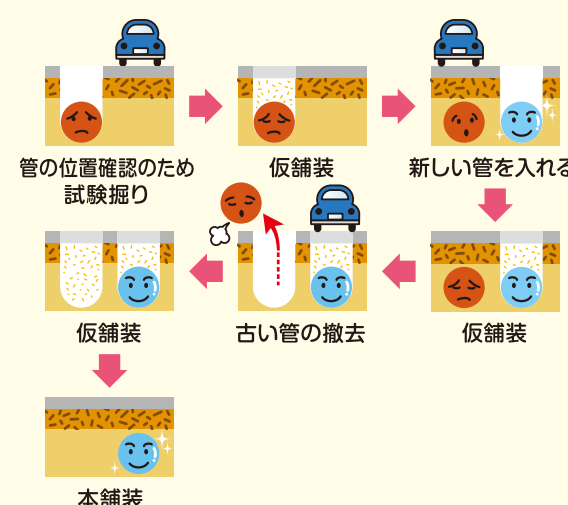


Q. 道路工事が年度末に多い理由は？

その理由のひとつとして、道路を改良したり維持・修繕したりする工事は、毎年4月以降に工事が発注され、翌年の3月末までに工事を終わらせるようになっています。工事を行うためには、事前準備が必要となり、すぐに工事にとりかかることは少なく、また地面を掘るような大規模なものは、地下の水道管やガス管などライフラインを管理している会社と調整を行いますので、結果として準備を終えて実際に工事を行うのは、年度後半に偏りがちになってしまいます。そのため、特に年度末に工事が多くなります。

Q. なぜ、同じところを何度も掘り返すの？

道路を掘り返す原因の多くは、古くなった管を事故が起きる前に新しく丈夫な管に取り替えるための更新工事によるものです。道路の地下には、水道管、ガス管、電気・電力ケーブル等が埋められており、あまり近づきすぎると接触事故の危険があるため、施設ごとに地中の深さや左右の位置の基準を設けています。工事を円滑に進めるために、試し掘りによってあらかじめ埋められた管やケーブルの場所を確認しています。時には、これらの管が工事の障害になったりするので、その障害を取り除く工事を先に行うこともあります。また、交通への影響を少なくするために夜間だけ工事を行ったり、工事の順番を決めて片側ずつ工事を行ったりしていますので、同じところを何度も工事することになります。



道路は、通勤・通学、買い物など私たちの日常生活や経済活動を支える最も基本的な社会基盤施設（インフラ）であり、人や車が通行する「交通」の機能に加えて、下水道や水道、電線などの公共公益施設を収容したり、採光や通風、防災のための「空間」の機能も有しています。道路は私たちのまちのすみずみまで張り巡らされ、福岡市が管理する道路だけで約3,851km（平成28年4月1日現在）あり、快適で安全・安心な生活を支えています。

役割3 収容空間

下水道や水道、電気、ガス、通信（電話）などのライフラインを収容する役割を担います。さらに、地下鉄や地下街が通る空間になります。



役割4 環境保全

散歩やサイクリングなどのレクリエーション空間として、また、太陽の光が差し、風が通り抜ける空間となります。



道路サポーター制度について

福岡市が管理する道路において、地域団体及びボランティア団体等が行う道路の清掃・美化及び破損箇所の通報等の活動を支援します。詳しくは、ホームページ（「福岡市道路サポーター制度」で検索）をご覧ください。

このような箇所を見つけたら、お知らせください。

- ①道路の破損
くぼみがある。陥没している。
- ②防護柵の破損
ガードレールが曲がっていたり、折れている。
- ③カーブミラーの破損
ミラーが割れている。ミラーの向きがおかしい。
- ④側溝蓋の破損
蓋が割れている。落ち込んでいる。
- ⑤照明灯の破損
暗くなってもつかない。明るくなくても消えない。
- ⑥側溝のつまり
砂やごみが溜まっている。

乗り入れブロックは設置しないでください

道路上の乗り入れブロックなどの設置は違法ですので、すべての人が安全・安心に通行できるよう撤去をお願いします。ブロックや鉄板による事故が発生し、設置者（所有者または使用者）の責任が問われる場合があります。なお、車庫への出入りなどのために歩道の切り下げ（段差解消）が必要な場合には、自費で工事を行うことができます。詳しくは、下記のお問い合わせ先までご相談ください。



路上に置かれた乗り入れブロック

自費切り下げ工事後

お問い合わせ先

区役所・出張所	担当課	電話	FAX
東区役所	維持管理課	645-1057	632-8999
博多区役所	維持管理課	419-1062	441-5603
中央区役所	維持管理課	718-1084	718-1079
南区役所	維持管理課	559-5092	559-5096
城南区役所	維持管理課	833-4078	822-4095
早良区役所	維持管理課	833-4338	841-6687
早良区入部出張所	道路下水道維持第2係	804-2455	804-2026
西区役所	土木第1課	895-7047	882-2137
西区西部出張所	土木第2課	806-0411	807-3080

河川改修

河川が氾濫しないよう、川の幅を広げたり深くすることで、より多くの水を流せるようにしています。また、市民の皆さんが都市の貴重な水辺空間である河川に親しめるよう、環境整備も進めています。



改修前後の河川の状態(金屑川)



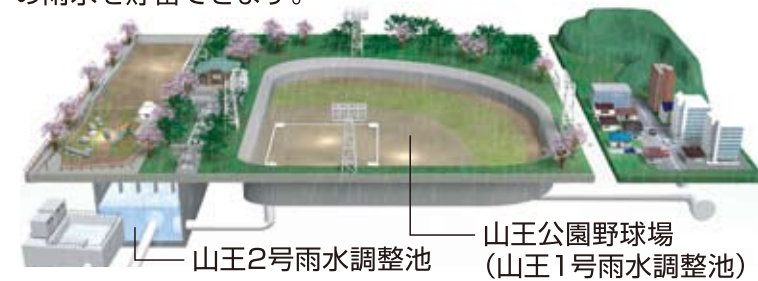
環境整備後の様子(金屑川)

雨水調整池～山王雨水調整池～



山王2号雨水調整池

平成11年・15年に甚大な浸水被害が発生した博多駅周辺の浸水対策事業として従来より整備の基準を強化した「雨水整備レインボープラン博多」を策定し、その事業の一つとして、山王公園(博多区山王)に雨水貯留を目的とした山王雨水調整池を設置しました。まちに降った雨が水路や河川に急激に流入しないよう、一時的に溜めて浸水を防ぐ役割があります。山王2号雨水調整池(写真)は、公園のグラウンド地下に設置したもので、25mプール約41杯分の雨水を貯留できます。また、山王公園野球場は約1.8m掘り下げて作っており25mプール約36杯分の雨水を貯留できます。

山王公園野球場
(山王1号雨水調整池)

安全・安心な生活を支える総合的な治水対策



短い時間に大雨が降ると行き場のない雨が道路にあふれてしまいます。福岡市でも、平成11年をはじめとして甚大な浸水が発生しました。このような被害を繰り返さないため、河川改修とあわせ、流域からの雨水の流出を抑制することや、避難活動や水防活動などによる被害軽減対策を一体的に進める総合的な水害対策(総合治水対策)に取り組んでいます。

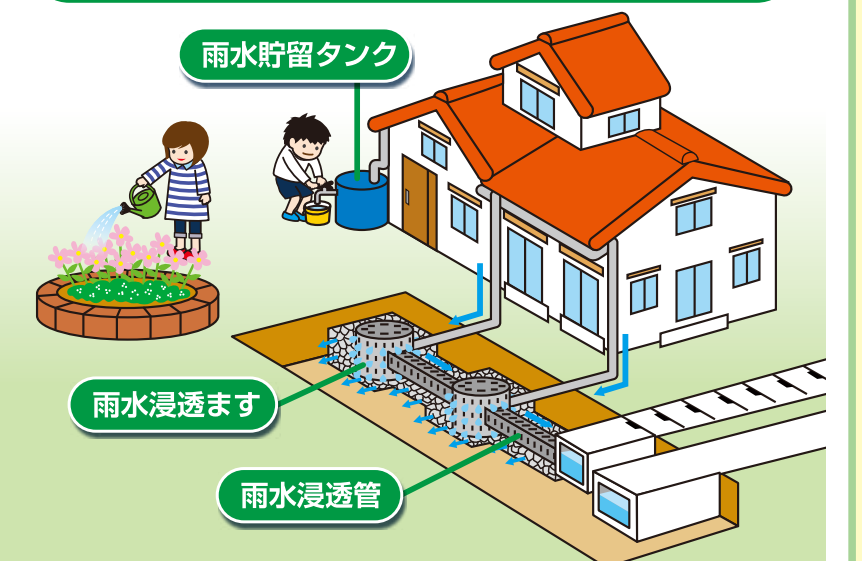
過去の大雨時の状況



地下鉄博多駅



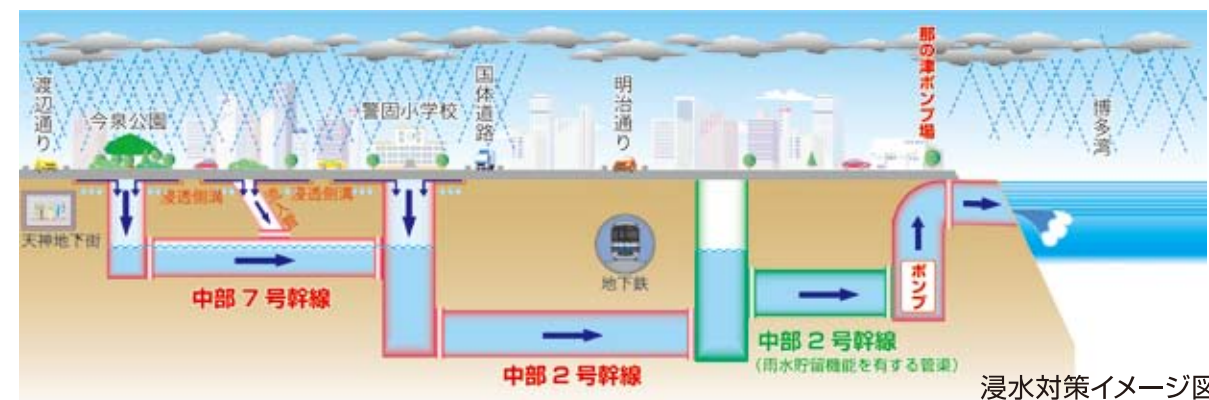
周船寺川

各戸貯留浸透
～雨水貯留タンク・雨水浸透ます・雨水浸透管～

屋根に降った雨水を地下に浸透させたり、タンクに貯めることも対策の一つです。浸水被害を軽減するばかりではなく、貯めた水を打ち水や庭木の散水に利用することで、地面の日照りを和らげます。また、雨水が地面にしみ込み地下水が増えることで、湧水や川の水が豊富になるなど、水循環に役立ちます。福岡市では、雨水貯留タンク・雨水浸透ます等の設置費用を助成する「雨水流出抑制施設助成制度」を設けています。詳しくは、ホームページ(「福岡市 雨水」で検索)をご覧ください。下水道管理課(電話:711-4534 FAX:733-5596)までご相談ください。

雨水幹線の整備
～雨水整備レインボープラン天神～

天神周辺地区では、博多駅周辺地区と同様に、従来より整備の基準を強化した「雨水整備レインボープラン天神」を作り、雨水貯留管や浸透施設等の整備を進めています。現在、第1期事業として、平成30年度までの完了を目指し、1時間に59.1mmの降雨を排水できる施設の整備を進めています。



浸水対策イメージ図

治水池

局地的な大雨から市民を守るため、市内各地に雨水を一時的に溜める治水池の整備を進めています。

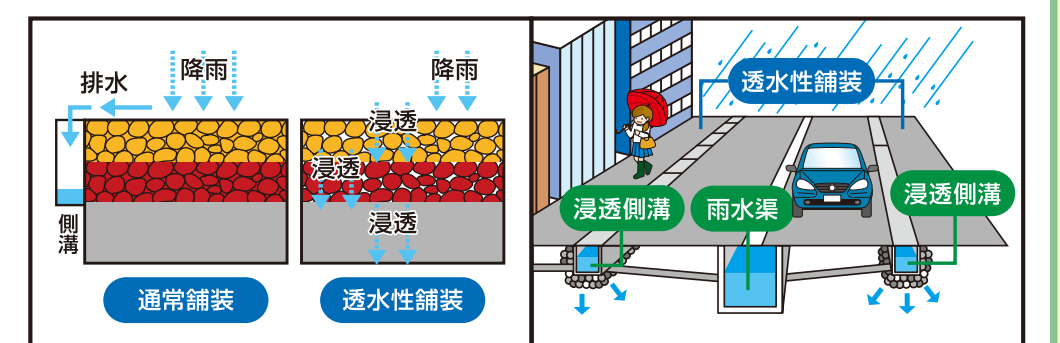


瓢箪池

透水性舗装

一部の歩道で透水性舗装を行っています。これは、舗装を水が通りやすい構造とすることで、雨水を地面に浸透させ、地中に還元させるものです。樹木の育成環境が改善されたり、地下水の量が増加したりすること、また「ヒートアイランド現象」の抑制などの効果が期待できます。また、側溝やますの底を砕石で充填することで、集めた雨水を地中に浸透させる施設を浸透側溝・ますと言ひ、同様の効果があります。

浸透側溝・ます



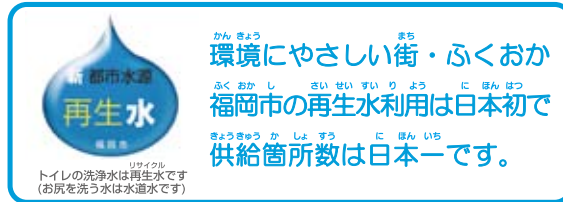
Q.河川の工事はなぜ年間を通してできないのですか？

河川では、原則として6月から9月にかけて工事を行っています。これは、この期間が梅雨や台風などの影響で雨が多いためです。河川の工事では、川の中の一部を閉め切るなどの作業が必要のため、どうしても一時的に河川が狭くなってしまいます。そうすると洪水が発生する危険性が高まることになります。このため、河川工事は雨が比較的少ない10月から5月にかけて行っています。

下水道資源の有効活用

下水道は、浸水からまちを守ったり、衛生的で快適な暮らしを支えたりするだけでなく、生活に関わるいろいろなものに再利用されています。

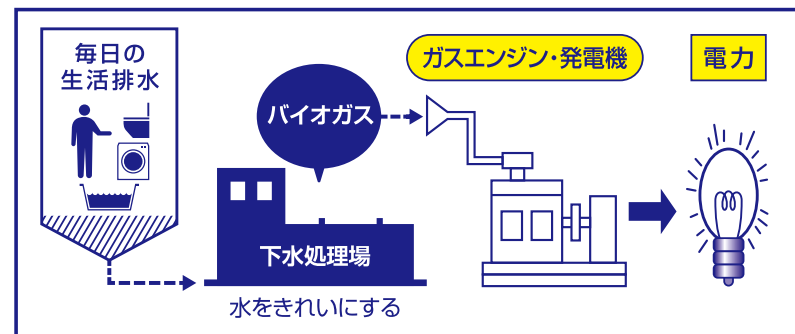
再生水事業



再生水の使用を示すシール

再生水は台所やトイレから流した水を、いろいろな用途で再利用できるようによみがえらせた水のことです。地形的に水資源に恵まれず、昭和53年の異常洪水を経験した福岡市では、都市の中の安定した水資源としてトイレの洗浄用水などに再利用しています。

下水バイオガス発電



下水の汚れは、微生物の力を借りてきれいにしていますが、その過程で発生する下水バイオガスを発電装置の燃料等として有効利用しています。この下水バイオガスを化石燃料の代わりに使用することで、温室効果ガスの削減に貢献できます。また、中部水処理センターでは、この下水バイオガスから水素を製造し、燃料電池自動車(FCV)へ供給する研究を行っています。

下水道の国際展開

～ミャンマー・シンガポールからレポート～

始動！ミャンマー国ヤンゴン市への技術協力

ミャンマー国最大の都市・ヤンゴン市の浸水対策の技術協力の一環として、平成28年7月3日からの7日間、道路下水道局職員8名で構成した第1回調査団を派遣しました。ヤンゴン市は急速な都市化や人口増加が進む一方で、雨季に市内で浸水が頻発しており、浸水被害解消が喫緊の課題となっています。そこで福岡市は国際協力機構(JICA)の草の根技術協力事業の採択を受け、福岡市の有する浸水対策の技術やノウハウを活用し、

今後3年間、本格的に技術協力を実施していきます。今回の派遣では、主に現地調査を行い、ヤンゴン市では計画的な施設整備ができていないこと、また、ゴミを排水路へ捨てる習慣があり、それらが詰まることで浸水被害を悪化させていること等が分かりました。これらを踏まえ、ヤンゴン市の浸水被害解消に向け、積極的に技術指導を行っています。



ヤンゴン市の浸水状況



現地打ち合わせ状況



排水路に捨てられたゴミ



現地調査状況



派遣者とヤンゴン市担当者



出展状況

シンガポール国際水週間2016・水エキスポ 出展報告

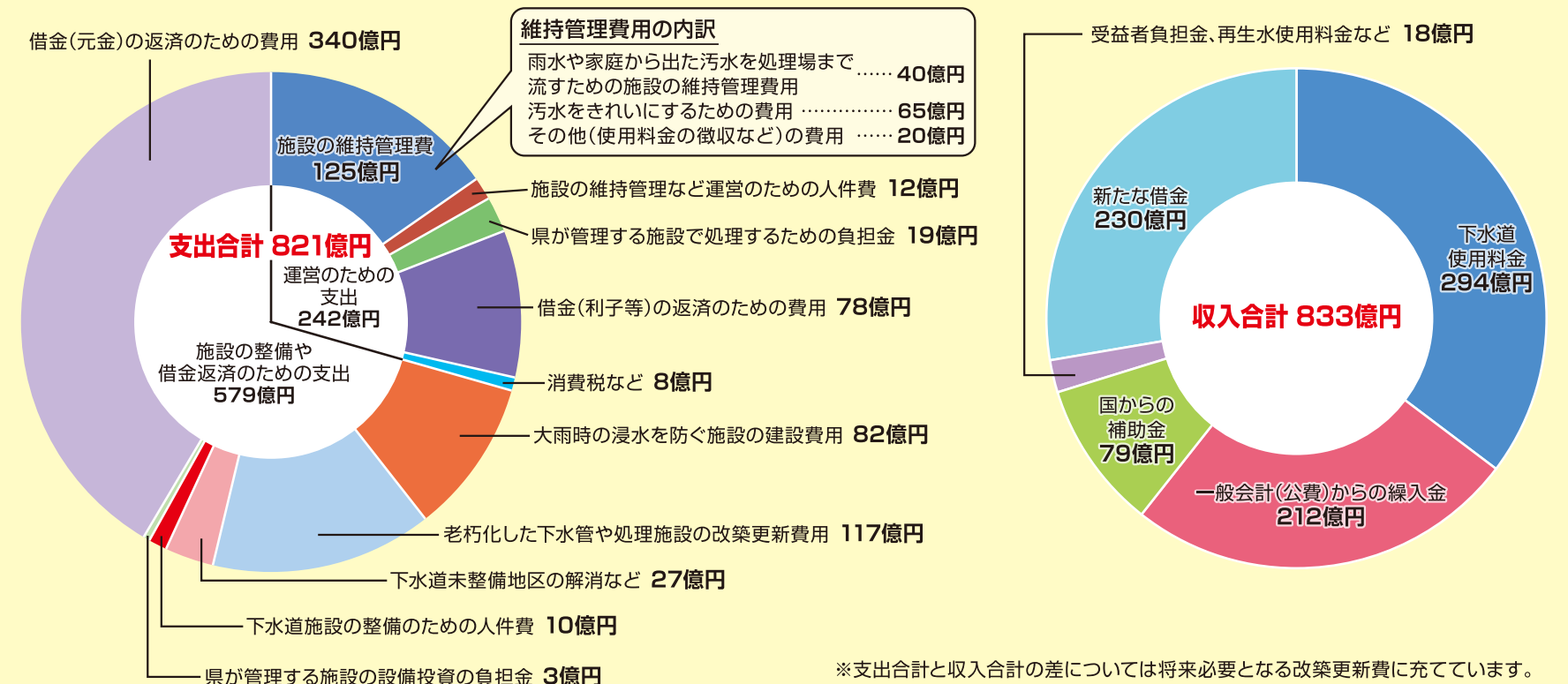
平成28年7月11日からの3日間で開催されたシンガポール国際水週間2016・水エキスポへ「福岡市国際ビジネス展開プラットフォーム」の会員企業4社と共同で出展しました。今回の出展では、市内企業の信頼性ある製品や技術を紹介するとともに、福岡市のまちづくりや上下水道分野における高い技術力を世界に向けて発信するため、パネルや製品模型等を展示しました。延べ150組以上の来訪があり、下水道分野では浸水対策や再生水利用下水道事業について十分にPRを行うことができました。共同出展企業からは、ビジネスへ繋がる可能性を感じたとの感想をいただきました。今後も官民連携した海外ビジネス展開を推進します。

下水道のお金のはなし

下水道の事業にかかるお金には「雨水公費・污水私費の原則」というものがあります。雨を流すための費用は「税金(公費)」で、汚れた水をきれいにするための費用は「下水道使用料(私費)」でまかなうという考え方です。雨は自然現象であり、浸水被害を軽減する効果は、市民の皆さんに及びます。このため、雨を流す費用は、広く市民の方に負担していただいています。これに対して、汚れた水をきれいにするための費用は、汚れた水を流した人に負担してもらう、という受益者負担となっています。汚れた水を多く流すほど、きれいにするための費用がかかるので、下水道使用料の単価は、排水量が増えるにしたがって高くなっています。

汚れた水をきれいにしたり、雨を流すための費用はいくらかかっているの？

下水道事業は、その運営のための費用や施設の整備、過去の整備の際の借金の返済などに計821億円を支払い、市民の皆さまからの下水道使用料金や新たな借金等でまかなっています。(平成28年度予算)



下水道施設建設のための借金(企業債)はどれくらいあるの？

長期間使用する下水道施設の建設・更新のための費用は、お金を借り入れることによって、時間をかけて返済しています。これは、将来世代にわたり下水道施設を使用する多くの人に公平に費用を負担していただく意味があります。福岡市の下水道事業の借金(企業債)残高は、平成14年度がピークで約5,097億円ありましたが、それ以降、借金の額を抑えるとともに、着実に返済することで年々減少し、平成28年度末で約4,003億円となる見込みです。

● 下水道事業の予算・決算の詳細については、
● ホームページ(「福岡市 下水道の予算・決算」で
● 検索)で公開していますので、ご覧ください。

